

琉球新報 2019.04.16 琉球新報朝刊 25頁 4社 1版 写図表有 (全415字)

昭和初期に旧帝国大学の人類学者らが沖縄から持ち出した遺骨63体が台湾の国立台湾大学から返還されたことを受け、琉球民族遺骨返還研究会の松島泰勝代表（龍谷大教授）らが15日、西原町の県立埋蔵文化財センターで遺骨の保管状況を確認した＝写真。遺骨が持ち出された今帰仁村の百按司（むむじゃな）墓と関わりがあるとされる第一尚氏の子孫2人も同行した。松島代表らはガラス越しに遺骨の入った箱を確認し、手を合わせた。県に対し、持ち出された風葬墓に遺骨を戻し「再風葬」するよう、あらためて求めた。

県教育庁文化財課の濱口寿夫課長は「再風葬する予定はない。われわれとしては学術資料の移管という位置付けだ」と答えた。

一行は同センターの外で慰霊祭も開いた。第一尚氏の子孫で、京都大学に遺骨返還を求めた琉球遺骨返還請求訴訟の原告でもある亀谷正子さん（74）は「台湾から沖縄に戻ったことは前進だが、祖先の骨を元あった場所で安らかに眠らせてほしい」と話した。

琉球新報社

本サービスにおける著作権および一切の権利は株式会社ジー・サーチまたはその情報提供社に帰属します。
本サービスの出力結果を複製、複写、出版、販売または第三者に対し配布することは禁止されています。